

東邦キャンパス

平成 20 年（2008 年）1 月 15 日
発行 学校法人 東邦学園
〒465-8515 名古屋市名東区平和が丘 3 丁目 11 番地
TEL 052 (782) 1241 FAX 052 (781) 0931
<http://www.aichi-toho.ac.jp/>

平和が丘一新—80周年記念事業が完成

東邦高校の校舎建て替え、愛知東邦大学の人間学部開設と日進グラウンド新設を掲げた東邦学園の三大事業が最終的に完成し、昨年 12 月 15 日、東邦高校で完成披露の会を開きました。

三つの事業は 2003 年 5 月、学園創立 80 周年を期に基本方針を決定。設計、日進市米野木南山のグラウンド用地買収などを経て、2006 年 4 月から工事に入っていました。最後まで残っていた高校の音楽棟、駐輪場とクラブハウス、テニスコート、アーチェリー場なども昨年 12 月末に出来上がりました。

総事業費は 51 億 2500 万円、各方面から 1 億 4800 万円（目標 3 億円）の寄付をいただき、自己資金不足分 14 億円は金融機関から借りました。

空からのながめをご覧ください（写真右）。全面完成前の 11 月末ですが、平和公園と接するキャンパスの新たな様子です。披露の会（写真下）では、吹奏楽部の演奏とバントワリング部の演技で開幕、85 年目を迎えた学園の歩みを映像で振り返りながら、約 500 人の出席者が完成を祝いました。（10～11 ページ参照）





何故か気になる 地球の異変

理事長 伊藤 時雄

教職員ならびに学園関係者の皆さん、新年おめでとうございます。

昨年末をもって完成しました学園の80周年記念事業—高校校舎建替え、大学新学部開設、大学の野球場とサッカー場の新設—への皆様方からのご理解とご協力、そして温かいご支援に対し、改めて深く感謝申し上げます。この事業は学園の歴史に深く刻まれることになります。

さて、「歴史は繰り返す」と言われます。人類の長い歴史のなかで、いくつかの文明が発生し、成長し、衰退、滅亡していく。この過程には類似性や法則性があり、歴史はそれを繰り返していると分析したのはイギリスの歴史学者アーノルド・トインビーです。しかし、今ではこの「歴史は繰り返す」という表現は、極めて身近な問題を説明するときにも使われています。

今年は北京オリンピックが開催され、2年後には同じ中国で上海万博が行われます。1964年の東京オリンピックを機に'70年には大阪万博、そして日本列島改造論をぶち上げ、日本中が莫大なエネルギーを消費して土木国家と重厚長大産業に向って走りだし、経済的豊かさと引き換えに環境破壊と深刻な公害をもたらしました。日本がいつか来たこの道を中国がまた辿るのでしょうか。人類は必ず過去から学ぶものですが、その広大な領土や13億ともいわれる人口からいっても、自国のみならず近隣諸国を越えた地球規模で環境への悪影響を加速しなければと願っています。最近中国の沿岸都市部の景観が激変し、青空が恋しくなったことも以前日本が辿ったことであり、余りいい兆候ではありません。

酸性雨、CO₂排出、オゾン層の破壊、地球温暖化、生態系の変異、気候の激しい変動…わが町・多治見市の昨夏の気温が日本最高記録を更新したからというわけでもありませんが、実感として最近やけに気になる身近な問題になりました。



STUDENTS FIRST

大学学長 山極 完治

新年明けましておめでとうございます。

東邦学園の歴史を辿りますと、2007年がエポックメイキングな年となります。実に多くの方々の努力が重ねられて、東邦学園の三大事業が成し遂げられたからです。

しかし、最も肝要な一事が抜け落ちては台無しです。今後は、「仏作って魂を入れる」課題が残されています。この課題が実を結んでこそ、「東邦2007」は歴史に刻まれ、語り継がれていくに違いありません。

この「魂を入れる」とは質の高い「教育」を施すことにあります。

教育は私事でなく、公事というより「天職」です。この「天職」とした教育の力によって「真に社会に信頼される人間」を輩出したい。これは、私財を投げ打って学園設立に努めた下出民義翁が宣言した「建学の精神」です。この理念は熱い思いを宿し、言霊となって私たちの胸に生き続けています。

本学は生まれながらに教育重視の学園と言えるでしょう。東邦の人間教育は、自立と共生とを噛み砕き、自立と共生とが一つになるように教育の真髄を形づくってきました。

「自立」とは、協働しながら自分をよりよく活かし、他者をも活かしていく「共育ち」を意味します。学生たちが、自立と協働とを程よく混ぜ合わせ、ベストハーモニーを奏でることのできる魅力的な大学づくりに力を注ぎます。

STUDENTS FIRSTとは、本学の教育にかける思いを凝縮した愛知東邦大学の学修教育のスローガンです。これは、学生が最もよく育ち、学生を最もよく育てるために、すべて学ぶことに方向づけた学生本位の考えです。

新年は、このスローガンを掲げ、教育重視の大学づくりに努めますので、皆様のご協力を重ねてお願い申し上げます。



ご挨拶

高校校長 高井 茂雄

新年のお祝いを申し上げます。
新しいということはいいですね。

昨年は新しい事づくめで、嬉しいことが多かった年でした。おしゃれな校舎を建てていただきました。快適な学校環境を、生徒も私達も堪能しています。格好良さは日本一とのことです。これを設計したデザイナー氏が「今手がけているのが完成するまではこれが日本一の学校建築」と太鼓判を押しています。私もあちこちでデザイナー氏の自惚れにあやかって、気持ちよく吹聴しました。大学も新しい校名、新しい学部、新しいグラウンドとトレーニングジム、それにスクールバスと、一気に体裁が整いました。大学生達も満足そうな顔をしています。

師走も押し詰まって、待ちに待った高校のグラウンドも完成しました。これで全てが新しくなりました。この2年間、生徒達は不自由さによく耐えてくれましたが、いよいよ新年の始業式をもって使い始めとします。この正月は、まさしく新生東邦学園のめでたい正月になりました。

ところで、正月といえは子どもの頃は、大晦日から三が日が過ぎるまでワクワクしていささか興奮気味でした。30代の頃もそれなりに楽しく動き回っていました。ところが、この5年間位は、「来る年」への期待ではなく「行く年」を惜しむ気持ちが大きくなってきました。これから老いの年代に入る印かなと思います。また、それと同じような気持ちの変化でしょうか、新しいことより伝統的なことに関心がいくようになってきたようです。殊に大正・明治・江戸時代位の人々の生活のあり方に興味をひかれます。家屋、暮らしぶり、社会風潮、芸能などを通して、日本的なるものを感じようとしているのだと思います。

都会の年配者の間にそば打ちを趣味とする人が出てきて久しくなりました。中には蕎麦屋を開業してしまった人もいます。先日も通の間では全国的に

有名な蕎麦屋の店主がテレビで紹介されていましたが、脱サラだといいます。この人達を動かしているのも、最近の私の気持ちと通ずるところがあるのでしょうか。

話しが大きくそれで恐縮ですが、蕎麦に関して別のテレビ番組を見ていてとても驚いたことがありました。蕎麦の名店を紹介していたのですが、その店は薬味のねぎを添えないというのです。ねぎは刺激が強すぎて、蕎麦の風味を損なうというのです。成る程など、そのこだわりに感心しました。蕎麦へのこだわりでは、先代の柳家小さん師匠の文で、蕎麦屋での燗酒の後のざる一枚がいい。それも箸でつまみ上げた蕎麦の下端をちょいとお湯に浸けてすするもんだ、と書いているのを読みました。落語家は皆その様に演じます。江戸っ子の蕎麦食い心得らしいのです。明治の夏目漱石はもっと強烈なこだわりを作品の中で書いています。

私の食べ方は完全につゆに浸し、更に麺の間に出来るだけ含ませ、濃厚なつゆの味も楽しめます。音を立てて快くすするといようなことは、一杯に含ませたつゆが跳ねてしまうのでできません。箸で口中へ送り込むしみたれたやり方です。薬味のねぎは大好き。全部入れます。全く江戸っ子の粋の逆をいっており、お恥ずかしい限りですが、駅の立ち食い蕎麦でも大好きな位ですから、まあそんな程度でも仕様がありません。それでも私は名古屋で一番うまい蕎麦屋を決めています。師走に入ると必ず食べに行きます。私が最高と決めても何の価値があるわけでは無いのですが、思い切って披露致しましょう。「千種豊月」。白くて細い上品な更級蕎麦。この暮れもおいしく戴きました。

新しい校舎に感激したと言い、古いものに郷愁を抱くと言う、おかしい新年のご挨拶になりましたが、仕事の世界と趣味の分野を同時に述べてしまったということで、ご容赦いただきたいと思います。東邦高校は、新しい教育の舞台を作りました。今年が本当に再出発の年です。新しい環境で生徒達の挨拶の声が大きくなりました。環境は人を育てます。私達教職員も好環境に甘え満足するのではなく、より良い教育作りの年にしたいと思います。久々に決意の大きな年頭になりました。私も、今年は燃えています。

高校の行事

美術科 / 商業科 GD コース

第15回卒業制作展「未来の芸術家たち展」

美術科3年O組担任 竹田 正美

10月30日(火)

～11月4日(日)

の6日間、愛知県芸術文化センター内

8階美術館G1・

2ギャラリーにて

卒業制作展「未来

の芸術家たち展」

を開催しました。今年は〈美術科〉日本画専攻15人・油絵専攻11人・彫刻専攻6人・デザイン専攻10人、〈商業科〉グラフィックデザインコース17人＝総勢59人の創造力・造形力の集大成として作品が展示されました。

会場は全体的に落ち着いた雰囲気を持ち、一步踏み入るとまずフロアに置かれた6体の彫刻作品が重ならず一体一体を遠景で観ることができます。そこからぐると見回すと正面奥に油絵作品が鮮やかに自己アピールを放ち、サイドと手前壁面には落ち着きと深みを持つ日本画の作品を配置しました。作品を一点一点じっくりと鑑賞できるスペースは、観る側に雑踏から抜け心休まる時空間を持たせてくれるようでした。

日本画・油絵・彫刻のファインアートの鑑賞をあとに次の展示室に体を向けると、とても煌びやかに商業科グラフィックデザインと美術科デザイン専攻の作品群が、観る側をゴージャスに迎え入れてくれました。近づくとさらに興味関心が高められました。

どの来館者も時間をかけてじっくり鑑賞を楽しまれ、見終えてから受付へ再び来られ「とてもいい作品を観せて頂き、ありがとうございます」と、言われる方も多くありました。

本年も展覧会を大成功させ、搬入から搬出まで無事に終えることができました。これまで生徒に関わり、ご協力を賜った方々に厚くお礼申し上げます。

東邦カルチャーデイ

国際交流室長 河野 芳江

10月27日(土)、生憎の雨模様の日でしたが、東邦カルチャーデイが開催されました。昨年の反省を踏まえて、今年は少し早い日程です。

スピーチコンテストの結果を待つ中学生や、学校説

明会に来た方々に、文化祭での演目をお見せし、東邦高校の文化活動の一端を覗いていただこうという狙いです。

午前中は体育館で入念なリハーサルが行われ、午後1時から開演。約300名の入場者でほっとしました。放送部の司会進行で、まずは2年J組の力強い太鼓演奏。続いて1年L組と2年N組の英語劇。どのクラスも試合で多数抜けていましたが、それを感じさせない巧みな演奏、歌、踊り、英語と、「これが高校生だ」という迫力で拍手喝采でした。ダンス部の見事な踊りで舞台を締めくくってもらいました。

最後にコンテストの発表があり、優秀者によるモデルスピーチと、刺激的な1日が終了しました。

第2回中学生英語スピーチコンテスト

審査委員 藤澤 一郎

10月27日、カルチャーデイの日に中学生を対象にしてスピーチコンテストを実施しました。昨年に引き続き今年が2回目となります。申し込み期間当初は参加者が集まらなくて、心配をしましたが、最終的には27校、参加者103人という昨年よりも多い参加校や参加者が集まり、スタッフ一同胸をなでおろしました。

コンテストの実施方法は、自分で原稿を書いて読むスピーチ部門と本校が用意した原稿を読む形のレシテーション部門に分かれる。レシテーション部門はまた1年生と2年生・3年生の部門に分けました。その中で2・3年生の部門は参加者が多く、2つに分け各教室で優秀者を決めて最後に最優秀を決めることとしました。レシテーションの原稿は中学生にとって読みやすく感情移入しやすい読み物にしました。毎年読み物を変更することにしていますが、今年の読み物は「不思議の国のアリス」「シャーロットの贈り物」「走れメロス」の3作品から抜粋した作品で、3作品の内1作品を選ぶこととしました。

参加者たちは付き添いの教諭とともに早い時間から練習をしている姿が印象的でした。どの中学生の発表も暗記が出来ているだけでなく、発音・イントネーション・ジェスチャーともに申し分なく、優秀者を選ぶ審査委員会でも白熱して議論が行われました。まさしく審査員泣かせのスピーチコンテストでした。



中学生のすぐれた発表が続く

審査発表はカルチャーデイの中で行い、優秀者のモデルスピーチだけでなく、2・3年生のレシテーション部門での最優秀者を選ぶ決勝戦も行いました。その時の発表も堂々としていて、とても中学生とは思えないような出来で、会場に集まった観客は一同に驚嘆の声を上げていました。

参加者たちに実施したアンケートからは、他の人のスピーチを聴くことで、非常に勉強になったという意見や参加して良かったという意見がほとんどでした。また、次回も参加したいと意見も多く、担当者の一人として非常に嬉しく思っています。今後次年度の第3回のコンテストに向けて、今回の経験を生かしてさらに良いスピーチコンテストを作るために努力します。

平成19年度 東邦高校修学旅行

2年学年主任 寺島多岐夫

本年度の修学旅行は、前団(1・2団)11月15日(木)から19日(月)、後団(3・4団)11月16日(金)から20日(火)の4泊5日間という日程で実施されました。例年に比べ、約1週間ほど遅い実施でした。気候的にも大きな変化はなく、朝晩が多少寒く感じる程度でした。

第1日目、中部国際空港を午後の3時ころ出発し、浦東空港に到着。リニアモーターカーにて上海市内へ移動しました。300キロ以上のスピードで、あっという間に到着しました。帰りには同じ道をバスにて移動しましたが、リニアモーターカーの速さを感じることができました。その後、バスにて蘇州に移動。途中、上海市内で渋滞に巻き込まれ、ホテルに着いたのは、10時近くになってしまいました。

第2日目、蘇州市内の「虎丘」の見学。生徒たちは、中国での初めての見学地であるので、興味深い様子で見学をしました。その後、バスにて約2時間、南京市へ向かい、南京市ではまず、『中山陵』の見学を行いました。中山陵は中国革命の父である孫文の墓であり、生徒には世界史の授業の中で、取り扱っていたばかりなので、孫文という人物については知識もあり、中国での取り扱いも納得できる様子でした。次は孔子が奉られている『夫子廟』周辺の散策です。生徒は、こ



中山陵にて

こで中国で初めての自由行動でした。1時間30分という短い時間でしたが、生徒たちは中国を肌感じて、実際に中国の人々と接し、買い物や見学を楽しみました。

第3日目、この日は前日と同じ南京市内の行動でした。午前中には『綉球公園』にて、虐殺記念館の元館長を招いて、平和セレモニーを行い、70年前の日中戦争に



南京外国語学校の交流会で挨拶する東邦生

における日本軍の蛮行や、これからの日中関係及び世界平和の大切さを深く感じることができました。その後は『中華門』を見学し、中国の古代史を学ぶことができました。南京の城壁は年々修復がなされ、前回(3年前)に訪れたときよりも長さも伸び、過去の建築物の壮大さを見ることができました。午後には、『南京外国語学校』との交流会でした。新築になった講堂・体育館を使用し、まず両校の代表による挨拶から始まり、次に両校の出し物(後団は、K組のゲタツプ)によって盛り上がりました。その後、それぞれの種目(折り紙・書道・バレーボール・大縄跳びなど)に別れ少人数で交流を行いました。生徒たちは、中国の生徒諸君と会話を弾ませ、実に楽しい時間を過ごしました。最後は両校の代表による綱引きで締めくくりました。両校にとって、そして生徒にとってすばらしい時間となりました。

第4日目、南京市から上海市へ、日本のJRの技術提供で作られた列車(日本の新幹線と同じ)で移動し、上海市内の見学を行いました。以前はこの移動も時間が多くかかりましたが、現在は2時間余で到着しました。上海市の見学地はまずは『豫園』でした。ここは、中国風の建物で彩られた、観光地であります。生徒の興味を引くものが数多くあり、滞在時間の少なさが余計に生徒の名残惜しさに繋がりました。次は、『上海博物館』そして『南京東路』・『黄浦公園』と自由時間を含めて現在の中国を満喫しました。夜は、生徒たちが楽しみにしていたものの一つである『上海雑技』を見て、旅の疲れを癒しました。

第5日目、上海の浦東空港から中部国際空港への飛行機の旅で、全員が無事帰国し、それぞれの思いを胸に帰宅の途に着きました。

我々が見学などをする場所は、年数がたっても余り大きな変化が見えませんが、そこに住んでいる人々やその生活は年々変化を感じることができました。来年に北京オリンピックを控え、その後の上海万博と巨大なイベントを軸に経済発展を成し遂げようとする姿は、ちょうど日本の高度経済成長期に類似しており、その中で国民のバイタリティを強く感じる事ができた旅行でした。

大学の行事

地域と子どもを考える講演とシンポジウム

子どもの生活環境が危い！

地域創造研究所所長 森 靖雄

本学「人間学部」の開設を記念して、地域の視点から子どもの環境を考える講演会とシンポジウムが、11月15日（木）午後、名古屋ガーデンパレスで開かれました。今回は講演2本とシンポジウムを4時間近くにわたって開催する大型企画でしたが、会場がほぼ一杯になる170人ほどが最後まで熱心に参加されました。参加者は、保育関係者・一般参加者、フレンズ・TOHO（東邦学園支援団体）会員、子ども発達学科学生・大学関係者がほぼ3分の1ずつ。参加者アンケートによると、大変満足度が高い内容でした。なお、この行事には愛知県教育委員会と名古屋市教育委員会の後援を頂きました。

「ノーテレビデーをつくろう！」と呼びかけ

第1講演は子どもからの電話による訴えを聞く「チャイルドライン」の支援組織代表清川輝基氏による、子どもの発育にテレビが与えた悪影響を告発する内容の話。日本経済の発展やテレビの普及に伴って、子どもが家庭や社会から孤立させられ、テレビやテレビゲーム漬けになり、子どもの発育がひずんだことや、教育上も様々な問題が多発するようになったことが、多様な映像資料などで話されました。清川氏は、その対策として「せめて週1日はテレビをつけない日を設けよう」と呼びかけられました。

「キッズケータイ」の危険性に慄然

第2講演はNHK国際放送局チーフディレクターの小宮山康朗氏。最近までの職場であったNHK放送文化研究所で発表された論文「携帯電話は子どもたちを豊かにしたのか？」をベースにした話。NTTドコモが子ども用として発売している「キッズケータイ」でも、数回のボタン操作で簡単にわいせつ画像や出会い系サイトへ行き着いてしまうことを、画像で示しながらの判りやすい講演でした。親が顔をしかめるような画面にあっけなく行き着いてしまう画像の展開に、会場内はシンと静まり返りました。

地域で子どもを育てる環境づくり

シンポジウムは、「地域の子育ち環境を考える」テーマ。本学子ども発達学科長：古市久子教授のコーディネートで進められました。発言者は、愛知県児童総合センターの田嶋茂典センター長、前記の小宮山氏、本学人間学部の矢藤誠慈郎教授の3人。田嶋氏は愛・地

球博記念公園内（長久手町）で開催されている多彩な子ども向けプログラムを映像で紹介しながら、子どもにとって体を使



使って遊ぶ機会の必要性を強調されました。小宮山氏は、子どもに安易に携帯電話を与えないほうが良い、子どもを金儲けの道具にするのではなく、安心して子育てができる環境をつくる必要性を強調されました。矢藤教授は、戦前からの地域社会・家族・学校の関係の変化を振り返って、高度成長以後の日本では個々の家族がばらばらに学校へ批判や要求を寄せるようになり、それが学校現場を混乱させていることを整理され、再度地域社会が共同体機能を取り戻す必要があると発言されました。

会場からも数人の発言があり、司会の古市教授は「社会の進歩に子どもがついていけなくなっていることが様々な弊害の原因である。そのギャップを埋めるのが地域であり、地域の再構築が必要であろう」と結ばれて、シンポジウムを終えられました。問題が大きいだけに参加者にも様々な思いが残ったようで、閉会後もあちこちで立ち話が続いたり、講師の皆さんを囲んだ話し合いが続きました。

大学和丘祭“RE:START”盛況のうちに終了

経営学部講師 大勝志津穂

短大時代から数えて43回目の大学祭が、11月24、25日に様々な意味を込めた“Re:Start”をテーマに大学キャンパス内で開かれました。両日も晴天に恵まれ、小春日和の中、学生は様々なイベントに取り組みしました。

餅まきならぬ飴まきによってオープニングが飾られ、大学祭がスタートしました。すぐに、初日の目玉のひとつである愛知東邦大学カラオケ王座決定戦の予選が、4月に新しくできたC棟の一室で始まりました。本格的なカラオケ採点機器を持ち込み、機械が出す得点のみという客観的な審査のもと、41名が決勝戦出場の8枠を目指して日頃の成果を発揮しました。予選が終わる頃には、校門からC棟に続く道で行われていた模擬店も本格化し、呼び込みや出張配達に駆け回る学生の姿がいたる所でみられました。

夜のイベントでは、ZIP-FMのタイアップのもと“エイジアエンジニア”“KAME&L.N.K”“RSP”の3組のゲストライブが行われました。ZIP-FMと

のコラボレーションは大学初の試みでしたが、学生は大いに盛り上がりました。

一夜明けて2日目には、愛知東邦大学筋肉番付が最初のス



盛り上がるライブ会場

テージイベントとして行われました。部活動をしている学生だけでなく、一般の学生や教職員も参加するイベントで、顔を真っ赤にして30秒間腕立て伏せをする学生に、拍手と声援が送られました。午後からは、前日の予選を勝ち抜いた8名が体育館のステージで決勝を戦いました。さすが、予選を勝ち抜いてただけであり、審査員や学生がその歌声に聞き入る場面もみられました。そして、最後は恒例のビンゴ大会。“うまい棒”から“37型液晶TV”まで、50個に及ぶ商品がステージ上に並び、番号が読み上げられるたびに一喜一憂する学生の声が体育館をめぐりました。

この2日間、地域の方々や同窓生、教職員の家族など、多くの皆さんが大学に足を運んでくれたと思います。私自身は、講義では見られない学生の一面を見ることができ、新たな発見をすることができました。また、学生も大学祭を通して新たな発見をし、成長したと思うので、今後の大学生活にこの経験を生かしてもらえればと願っています。

経営学部ゼミ交流会

今年は4組に分けて開催

今年も経営学部のゼミ交流会が開かれました。当初予定した日程を変更して、専門ゼミは12月4日（火）と6日（木）に分けて開催する分散型交流会。1年生も例年のように2回に分けて基礎演習報告会を開きました。そのため、日によって盛上りにばらつきがありましたが、6日には葛原ゼミ（トレーナー組織の運営4本）、森ゼミ（①生協食堂の利用状況調査、②本学学生の朝食・昼食実態調査の2本）、大川ゼミ（ディズニールランドの仕組み）、岡部ゼミ（アメリカと日本の社会比較）の4ゼミから5本の報告があり、多彩なテーマでゼミ研究がおこなわれている現状を印象づけました。

参加した学生の一人は、「ほかのゼミでも結構深くやっていることに感心した」。留学生の一人は、「日本語でスピーチができてよかった」と話していました。

高大連携授業を担当して

経営学部准教授 杉谷 正次

東邦高校商業科経理コースの3年生を対象に、「コンピュータを使いこなそう！」という授業を1年間担当しました。受講生は33名、硬式野球部、サッカー部、アメフト部、バスケット部などのクラブに所属する元気でユニークな生徒たちで、とても賑やかな授業でした。

前期の授業では、主にビジネスソフトの活用法を、後期はGoogle Earthやホームページの作成など、毎週1コマ（1コマ=90分）、「コンピュータを使っているいろんなことにチャレンジしてみる」という目標を掲げて授業を行いました。なかでも、生徒たちが一番関心をもったのは、Google Earthでした。ほとんどの生徒は、Google Earthを操作した経験がなかったことから、例えば世界のミステリースポットを発見するという場面では、その映像のすごさに感動した者がたくさんいました。

最後に受講した生徒たちへ一言。進学、就職、いろんな進路を選択されたと思いますが、この授業で学んだことが少しでも役立つことを願っています。



本学教員の出版物

・『新版大学生の学習テクニク』

森 靖雄 大月書店刊

大学経営学部の森靖雄教授が、『新版大学生の学習テクニク』（大月書店、¥1800）を発刊されました。13年前に同名の本が出されて以来、全国の主要大学で使われてきた著名な本。その後の学習技術の変化（コンピュータの普及など）や、学生の変化を反映して全面的に書替えられたもの。旧版にはなかった「就職篇」や「生協の活用法」が加わったほか、全体にいっそう読みやすい本になりました。随所に「筆者のささやかな経験から」という読みきりコラムも挿入されました。

新版の構成は、1レポート篇、2講義・ゼミ篇、3資料作成・活用篇、4就職活動篇、5大学生活充実篇、と索引。



地域貢献

市民講座16年の歩み

—小さな一つの学校—

高校 国語科教諭 市民講座担当 佐野 良昭

この市民講座は当時の国際交流室長高井茂雄（現校長）が名古屋市、理事会と折衝する中で生まれました。

①姉妹校、南京外国語学校の教師の時間保障、②東邦の教育を地域に還元する意義③生涯教育の一環を担うことを柱にこの講座は始まりました。運営は国際交流室のメンバーが事務局として担当し、現在に至っています。

91年に中国語クラスからはじめ、翌年から英会話、1998年アラビア語講座を開設し、現在は中国語2クラス、英会話3クラスを開設しています。時間帯は英会話が毎週火曜日、中国語は毎週金曜日午後6時30分～8時。1年を3期に分け、一期につき11回を目安で実施。この16年間で受講生は実人数で2200名を超えました。（表参照）この講座が続いているポイントは優秀な講師と講座の受講生の情熱とスタッフの熱意と職場内の支えだと思います。

受講生はそれぞれ仕事を持っていたり主婦であったりと忙しい時間の講座ですから、私たちは遅刻は大歓迎、予習も原則無し、クラス分けも自己申告として気軽に参加できる講座運営をしています。私たちは6時から6時45分まで会場の前に立ち出迎えます。忙しい中時間を作って参加していただきありがたいという感謝の気持ちを表すために立っています。挨拶することによって受講生や講師ともコミュニケーションを図ることが出来ます。また大学の教職員や警備員さんとも意思疎通ができるようになり、大学での活動も円滑にいくようになりました。また受講生が時間間際に息抜き切って駆けつけていただく姿や楽しい、いつもご苦

市民講座受講生数1991～2006
Ⅰ期（4～7期）Ⅱ期（9～11期）Ⅲ期（12～3期）

	講座名	Ⅰ期	Ⅱ期	Ⅲ期	クラス数
1991	中国語		34	53	1～2
1992	中国語 英会話	51 42	56 52	45 44	3 3
1993	中国語 英会話	55 54	41 49	50 51	3 3
1994	中国語 英会話	42 45	35 47	30 47	3 3
1998	中国語 英会話 アラビア語	20 52	26 41	12 37 6	2 3 1
2004	中国語 英会話	27 66	22 63	26 57	2 3
2005	中国語 英会話	20 46	19 58	21 52	2 3
2006	中国語 英会話	22 53	21 49	16 45	2 3
2007	中国語 英会話	17 41	20 43		2 3

労様等という言葉に励まされています。またこの講座は愛知東邦大学と高校の紹介、宣伝の場になっていると自負しています。

講座の運営と講義の両方を担当し、様々なことを学ばせても

らっています。一つの企画を立ち上げるには財政的に成り立つのかという経営的側面を考えると主体的に取り組むことの大切さ、世の中の流れや必要性、企画のイメージ化をすることの重要性などを学びました。中でも何よりも実践すること、主体的に取り組むことの大切さをあらためて教えられました。また継続する中で最初に立ち上げた頃の思いを耐えず継承して行くことも大切です。魂が入らなくなり、形だけこなすようになってはいけなと自戒しています。

確かに毎週何があっても実施しなければならないと言うことで担当者に負担感もありますが、それよりも大きなものを受講生からいただいています。社会的な地位も関係なく受講生という立場で一律に参加され、仕事後も学ばれようとするひたむきな姿勢から力をいただいています。また授業を如何にするかということへの反応は厳しく、すぐ現れます。だからこそ毎回何かこれは良かった、面白かったと言う授業を展開する工夫を強いられます。さらに継続して同じ授業を受けている人もいるので毎回同じ話は通用しません。工夫が必要となります。特に私の場合は中国語の基礎を担当していますがネイティブにない魅力を作り出して行かなくてはならないと言う問題もあり日々鍛えられています。

募集は受講生からの口コミ、新聞の募集欄や催し物の欄、TMCCパンフレット、ホームページ掲載で行っています。できるだけ経費をかけずということを基本にしています。TMCCパンフレットは私たちにとってありがたい宣伝の場になっています。また講座の受講生の口コミも大きく、その面では評価をされていると思っています。大学では施設及び駐車場の使用等の面で御協力いただいています。様々な人の協力で成り立っているこの講座は私たちにいろいろなことを学ばせてくれる学校です。



英会話1回目の全体説明の様子



エコアクション21への取り組み

高校 EA21実行委員会 稲葉 益夫

この東邦高校では、今まで電気量・紙使用・ゴミ総量削減について組織だった取り組みをしてきたことはありません。しかし、深刻な地球規模の環境悪化をうけて、持続可能なエコ社会実現が内外から強く望まれるようになりました。また、新校舎完成によって全館空調による電気使用量増大や、井戸水使用から公共上下水道使用の切り替えを受け料金増大という転機も迎え、学校全体での環境負荷低減活動が求められています。

このようなことをうけ、昨年度にISO検討委員会が、経済産業省エネルギー教育実践校指定を契機にし、光熱費削減や紙使用量やゴミ総量削減を主たる目標として、日常的教育活動はもとより対外評価を上げる要素の1つとしてISO14001を認証取得しようと設立されました。先進的な取り組みを進める他校視察や、複数の識者の考えを聞くことにより、取得の是非を検討するために取り組んできました。

この取り組みの中で、遠方までの他校視察や計5回の委員会を経て、環境省の作成した環境マネ

ジメントシステムであるエコアクション21（EA21）認証取得を目指すことで結論を得ました。



他校例 デボジット自販機

このEA21とは、内容はほぼISO14001と同様ですが、電気、紙、水、ゴミの4つが必須事項となっており、活動報告が義務づけられていることなどが特徴です。理由としては、実質的に環境負荷低減（省エネ）を第一に実現したいこと、低コストで無理がないこと、前例が少なく世間へのアピールともなることなどからです。ISOが抱える多くの問題が指摘され、ISO離れが生じている折、琉球大、山口県立大などが認証に踏み切り、また石川、東京、長野などの高校でも認証への流れが生まれています。

現在、エネルギー使用状況の過去データを整理したり、法令のまとめ、ゴミ排出量のモニタリングをすすめて、2008年より運用を開始し、2008年度はじめには正式に認証取得を目指しています。学校としての取り組みは全国的にも数例しかなく、東海地区で初の実施校となる予定で、注目があつまることと思います。

「第10回エコノパワーイン岐阜」に自作電気自動車で出場

電気自動車部門27位

11月4日（日）、岐阜県加茂郡坂祝町の日本ライオン自動車学校で「第10回エコノパワー岐阜」が開催され、東邦高校から1チームが参加しました。

愛知東邦大学1年生の田中君と愛知東邦大学職員小林さんの指導のもとに製作した「稲妻」で、稲葉教諭率いる東邦高校2年生7名がレースに臨みました。結果は電気自動車部門48チーム中の27位。初出場ながら好成績をあげることができました。



80周年記念三大事業完成

三大事業の完成 にぎやかに祝う

東邦学園三大事業完成披露の会（昨年12月15日）には、約500人の方に出席していただきました。

私学の理事長、学長、校長、名東区などの中学校長、幼稚園長ら教育関係者、事業に支援や協力をして下さったフレンズ・TOHO、後援会、PTA、卒業生、旧教職員、地域の方々、さらに建設に携わった企業からも参加されました。招待者には披露の会に先立って、教員が高校新校舎を案内、素晴らしいデザインと雰囲気感に感嘆の声も上がりました。

式典は高校吹奏楽部の演奏とバトントワリングの演技で午後1時半に始まり、伊藤時雄理事長は、教職員やご支援いただいた皆様に支えられ、厳しい学園経営の中、困難を乗り越え、成し遂げた喜びを語りました。

来賓として愛知県知事（愛知県民生活部私学振興室 近藤正人室長が代読）とフレンズ・TOHOの内藤明人会長（リンナイ取締役会長）からお祝いの言葉がありました。

今回の事業には多くの方々から募金をしていただきました。代表として、橋本雅能氏（福友病院 名誉院長）に伊藤理事長より感謝状を贈呈しました。多額寄付をされた方はご芳名を銘板に刻み、高校玄関近くに掲示して、学園に末長く記録させていただきます。



音楽棟

●東邦高等学校 新校舎完成



C棟（新設）

●愛知東邦大学 人間学部設立



●愛知東邦大学 日進グラウンド完成



The 80th Anniversary

キャンパス 短 信

大学・短大

ミャンマー留学生、難関奨学金に採用

国際交流委員長 岡部 一明



ミャンマーからの留学生、マウイリー・チョウモさん（経営学部2年）が、このほど「にっくとアジア留学生奨学金」に合格しました。卒業までの手厚い奨学金で、愛知県内で大学院5名、学部3人のみという狭き門を突破しての採用でした。ミャンマーは今軍事政権で、大学が閉鎖されることも多いなど教育条件が悪い中、マウイリーさんは高等教育の機会を求めて日本にやってきました。困難を要する環境からの留学で、家族や親類・友人の支援、本人のアルバイトは大変なものでしたが、今回の奨学金採用で希望が開けました。「日本の進んだ経営を学び、将来は母国で日本製品の貿易に関するビジネスを起こしたい」と張り切っています。

初挑戦の旅行業試験に3学生が合格



経営学部の「観光ビジネスコース」では、旅行業開設資格の取得を奨励しています。今年5人が「国内旅行業務取扱管

理者試験」に初挑戦し、そのうち3人が合格しました。この試験は昨年まで「国内旅行業務取扱主任者試験」と呼ばれていたもの。合格したのは、いずれも大川ゼミ2年生の、坂野仁志くん、鈴木晴奈さん、関谷百合名さん。年1回おこなわれるかなり難しい試験で、全国の合格率は46.7%でした。

受験した5人は、いずれも大学の講義と問題集で勉強して今回の試験に臨んだものです。

07年の大学短大教職員消防訓練について

防災委員会委員長 阿部 克己

9月19日（水）、毎年この時期に実施されている大

学・短大教職員の「消防訓練」が行われました。今年のテーマは「三角巾の使用方法」です。三角巾法は災害時の応急手当の最も手頃な方法として、一般に極めて有効に使われています。そこでその使用方法をわれわれ教職員が正確に知り、いざというときに役だてようということになったのです。

当日はA棟の101教室に56名の教職員が集まり、来ていただいた名古屋市名東消防署員の方の訓練の説明と応急処置についてのビデオをみた後に、二人一組となって実際に三角巾を使ってみました。



名東消防署の方の指導のもとに、組み立てた三角巾の頭への巻き方、手のつり方などをなごやかな雰囲気のもとで訓練しました。

食堂・売店にかわいい装飾

本学の食堂・売店を運営する大学生協の「生協学生委員会」（代表：久保勇樹君・2年生）らが、食堂の雰囲気を盛り上げようと、子ども発達学科選出の生協学生委員を中心に、食堂や売店の店内装飾を始めました。第1号は2作品。1つは食堂と売店の間のガラス窓を利用した透明感のある作品。2つめは売店前の壁に作られた紙細工の「樹」。(写真) 季節のうつろいに合わせて変化するそうです。

こうした作品づくりは、幼稚園・保育園では欠かさない技術であるため、生協とタイアップして「学生の作品発表の場」にする狙いもあり、作品作りには同学科の先生方にもご協力いただいています。今後も、さらに作品が追加され、季節ごとに新作が発表される予定です。



学生の作品が学食になごやかな雰囲気をつくる

(シンポジウムと資料展示会)

「下出文庫」の公開準備進む

地域創造研究所

本学の地域創造研究所では、今春から下出義雄東邦学園初代理事長寄贈資料の整理を始めました。8・9月には専門家らのべ200人ほどの協力で集中的に目録カード作りをおこない、14,000点にのぼる文献類の整理を終えました。寄贈資料の大半は全国的に遺存資料が少ない第2次大戦中のもので、当時の産業資料を中心に下出義雄氏が集められたものです。

この資料群は「東邦学園下出文庫」と名づけられ、研究所では2008年4月からこれらの資料を一般公開する準備を進めています。それに先立って12月13日（木）に東邦高校大会議室でこの資料の学術的価値を検証するシンポジウムを開きました。当日は、資料整理を指揮された高木備太郎氏の司会で進められ、森靖雄研究所長が「東邦学園下出文庫の概要」、榊直樹本学園常務理事が「下出義雄氏の人物像」、笠井雅直名古屋学院教授が「近代史研究の立場からの資料価値」、真野素行名古屋市史編集専門委員が「名古屋市史研究の立場からの資料価値」について報告。愛知県史の関係者など参加者約35人が、今後の活用法などについて熱心に議論しました。

なお、このシンポジウムに併せて、「下出文庫資料展示会」も開かれ、珍しい戦時中の生活グラフ誌や戦争の写真、㊞印が押された当時の秘密資料などに見入っていました。



高 校

新校舎での「慰霊の日」

校務部 今井 通昭

戦後60余年を経て、改めて現在の日本の置かれている立場を考えると、時代の流れは想像を絶する速度で変化しているのを肌で感じます。本校もまた、赤萩の時代を経て、現在の地である平和が丘に移り、そして、本年度になって、新たなる新校舎とともに、つ

いに第三世代ともいえる時代を迎えるに至りました。1995年の暮れに、旧校舎の中庭に建立された「平和の碑」も、今は新校舎入口にある、出会いの広場横に移設され、以前にもまして、来校される方々にその存在感を知らしめています。平成19年12月13日、新校舎で迎える最初の「慰霊の日」は、まさにその目前で厳かに執り行われました。曇天の下ではありましたが、関係各位の多数の方々の参列を得て、厳粛な空気の中、理事長先生より挨拶、黙祷、献花と続き、無事に「慰霊の日」を終了することができました。

1944年12月13日、当時の三菱重工業株式会社名古屋発動機製作所に対する米軍の空襲により、犠牲となられた本校教職員・生徒20名の方々のご冥福を、心よりお祈りいたします。

行事予告

東邦高等学校吹奏楽部 定期演奏会のご案内

東邦高等学校吹奏楽部では、第52回定期演奏会を開催します。みなさんのお越しを心よりお待ちしております。

日 時：2008年2月17日（日）
16:30開場 17:30開演（20:00終演予定）
場 所：中京大学文化市民会館（旧 名古屋市民会館）オーロラホール（大ホール）
（名古屋市中区金山1-5-1）
入場料：前売券 800円（当日券 1,000円）
※小学生以上は入場券が必要です。
※前売券の販売状況により、当日券を販売しないこともありますので、ご了承ください。
お問い合わせ
東邦高等学校吹奏楽部 顧問：磯部・長野・古野
T E L：052-782-1171 F A X：052-782-7151



第51回定期演奏会より

国際交流



国際交流室から

高校国際交流室長 河野 芳江

昨年9月17日～22日、姉妹校の一つ、オーストラリアのサレジアン校から日本語選択生10名がやってきました。実習の授業に参加したり、クラスと交流会をしたりと充実した経験をしていってくれました。10月25日には韓国の祥明高校生80名が修学旅行の途中に来訪。学校施設やクラブ見学などをしながら、東邦生と交流。予想以上に韓国語を知っている者がおり、写真をとりあったりして、笑い声でいっぱいでした。

今年1月にはニュージーランドのマリアン校から留学生が来る予定ですが、残念ながらこちらからは送ることができませんでした。「(5月の交流会で東邦生が植樹してきた)桜の木に花が咲いたのを見て欲しかったね。」という残念メールが届きました。



祥明(サンミョン) 高校生を迎えて



韓国の東邦卒業生前問記

理事長 伊藤 時雄

昨年10月5日～7日に高井茂雄校長と韓国のソウル市と光州市を駆け足で訪問しました。戦後50年目にあたる1995年度の高校卒業式で、50年後輩の卒業生と並んで戦前の東邦生が5名出席されました。当時校長職にあった私はその方々に「特別卒業証書」を授与しました。

1945年、日本の敗戦により解放された祖国へ卒業を待たずに飛ぶが如く帰国した東邦商業生徒のうち5人の方々が、あの感動的な涙の卒業式に参列されました。その後、学園からは1997年に私が数名の先生



鄭(基栄)さんⓈとソウル・景福宮にて

方とソウルに赴き、韓国同窓会で親交を深め、また韓国からは学園の節目の祝賀会や行事にまとめ役の鄭基栄さんや兪吉成さんも遠路はるばるご出席頂きました。数年前には生徒会の顧問と役員数名が鄭さんのご自宅に泊めて頂いたりしています。このお二人は昨春の新校舎での最初の入学式にも参列されました。その時

もかねてより私が約束しながら実現できなかった韓国訪問を「今年こそは…」と再約束し、それを果たしたわけです。鄭さんは元大統領の金大中氏の同志として民主化運動にも関わり、韓国国会議員を務められました。兪さんは1950年に勃発した朝鮮戦争で大韓民国武功勲章を授与された勇者です。お二人とも持論は明々白白で、地元での存在感は大きなものと実感しました。お二人はお互いに呼び捨てで怒鳴るが如く携帯電話で話していましたが、いつお会いしても羨ましいくらいの幼友達です。お二人が80歳になられたことを考え、人生のはるか後輩の我々がソウルと光州間を移動し、両家のご息やお孫さんまで動員しての歓待にいたく恐縮した次第です。

ホテルで寝る時間以外は自由時間なしというスケジュールのなか、日本では失われつつある儒教の精神や生活習慣、家父長制度を感じさせる家族の絆を改めて垣間見た感じでした。

鄭さん兪さん、ご息子やお孫さんと過ごした時間と場所、そして何よりも史跡や記念施設を目の前にし



兪(吉成)さんⓈと国立5・18民主墓地にて

て教えていただいた韓国の歴史と文化、生活習慣など、あの涙の出会いがなかったなら得られない思い出を胸深く持ち帰ることが出来ました。

あの卒業式に出席された5人のうち、既にお二人が他界され、お一人は病床にあることが判明しました。亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。



雲南大学へ初留学

大学国際交流委員会

経営学部2年生の藤網宏城君が、「雲南大学」へ語学留学することになりました。同大学は本学の海外姉妹校の一つ。本学から中国の大学へ留学するのははじめてです。3年生前期半年間の留学を両親も快諾されて実現しました。出発前で忙しい藤網君にインタビューしました。



パートナーシップ・インフォ

◆フレンズ・TOHO×モ◆

◆法人会員による就職支援「就職相談会」開催

10月20日「新卒学生の就職支援相談会」を愛知東邦大学A棟にて開催しました。各企業様のご支援と大学進路課の協力のもとに開催され、総勢27名の学生が参加しました。

ご参加いただいた企業は、フレンズ・TOHO 法人会員の(株)岡本製作所、丸善(株)、(株)ミニミニ、(株)ダイキンエンジニアリングなど10社です。今回は参加の全企業に就職希望者があり、11月15日現在4社から内定をいただきました。

◆平成19年度中間総会開催

11月15日、名古屋ガーデンパレスにおいてフレンズ・TOHO中間総会を開催しました。前後に行われた研究所との共催事業、講演・シンポジウム「子どもが育つ地域づくり」には会員も多数参加しました。

◆大学・高校に支援金を贈呈

◆会報「みどりの風」24号を11月に発行

◆就職支援企業セミナーの開催(予告)

3年生の就職活動前の対策として、2月頃に進路課と協力して、学生自身の支援組織「東邦職Do!!」が企業(業界・職種含む)説明会を企画・実施します。

◆TMCCだより◆

東邦コミュニティカレッジでは、平成19年度後期講座として次の6講座を開催しました。

◆特別無料講座

テレビのホントとウソ

～賢いテレビの見方のために～

◆クラシックピアノ 知る楽しみ・聴く楽しみ

◆名東学講座

名古屋東部丘陵の

歴史と自然

～紅葉の季節に散歩

コースを考えよう～

◆祭りにロマンを求めて

～“三遠信地方”の伝統の祭りの魅力を探る～

◆世界のフォークダンスと日本の盆踊り

～ドイツのフォークダンスを学ぶ～

◆チャレンジ!消しゴムはんこ



◆東邦高校市民講座◆

平成18年度Ⅲ期 12月～3月(全11回)

◆英会話 初級、中級、上級(毎週火曜日)

◆中国語 初級、中級(毎週金曜日)

高校 クラブ活動

駅伝



名岐駅伝出場権獲得。

駅伝監督 松岡 直希

11月4日(日)に行われた、県高校駅伝で13位となり、3年連続32回目の名岐駅伝に出場することが決まりました。

ここ2年は、予選会からの出場でしたので、素直に喜びたいところですが、駅伝特有の雰囲気のにまれたり、ブレーキをしたり、自分達の力を出しきれず納得いく走りが出来ませんでした。この悔しい気持ちを忘れずに目標の愛知県勢6位を達成して東邦旋風を巻き起こせるよう頑張りたいと思います。

応援の程よろしくお願いします。

名岐駅伝 平成20年2月3日(日)

岐阜県庁11:33発予定



本番に向けて走り込みをする選手達

陸上競技部



後藤佑紀 日本ジュニア・ユース 陸上競技選手権出場

陸上部顧問 長谷 和志

昨年兵庫国体200mで準優勝し、今年も東海地方を代表するスプリンターとして活躍が期待された後藤選手は、県高校総体での肉離れが響き、本格的な復帰戦が全国大会となった。残念ながら、計画的なトレーニングが継続できなかったことにあわせ、今年度の経験のなさが露呈してしまい(中間考査の次の日が試合だったこともあるが)、組によってはあと100分の1秒でファイナル進出を逃した(10秒92で組4着)。

しかし、彼の良さは40m付近まで加速し続けられるスピード維持能力にある。今回のレースでも60m通過記録は6秒8台であり、サブトラックでは各方面より、前半の動きが予選の中で1番良かった選手との賞賛の言葉をもらった。この区間では加速期から等速期への移行がスムーズに行かず、早い段階で等速期へ移行する選手がほとんどである。接地のタイミングに合わせた身体軸の移動技術と4肢の同調動作が、ブレーキ要素を最小限にし、加速し続けることを可能にする。スプリント技術の大幅な変革となった東京世界陸上で日本人選手とカール・ルイスのスピード曲線を分析報告した、京都大学の小田伸午先生から聞いたことがあるが、世界レベルの100mの選手は50~60m付近まで加速期を引っ張ることができるそうだが(当然最大スピードはその区間で出現する)。彼の場合も、最大スピードは劣るものの、きわめてそれに近いレース展開をしていることが推測される。

今年度における大幅な記録更新はなかったが、ジュニア期はトレーニングの効果よりも、ホルモンの作用がパフォーマンスに影響を与える時期であり、早熟型で暦年齢より骨年齢が上回っている選手が好成績を残すという先行研究がある。後藤選手が早熟型に入るの間違いのない事実である。今後の彼の記録の更新には、練習方法や技術改善でかなり試行錯誤していかねばならないが、不得意とする加速度ゼロのポジションからの急加速区間、レース後半の減速区間の改善に重点を置き、本人の特性を生かす指導が重要であると考ええる。世界選手権、オリンピックで日の丸をつけて立てる日を夢見て、今後の練習に精進してもらいたい。



『陸上競技マガジン』(2006-12より) 右端が後藤選手

水泳部



県新人大会に優勝して

水泳部監督 渡邊 素幸

皆さんの応援のおかげもあって、2007シーズン最後の県高校新人大会において女子総合優勝することが出来ました。担任をはじめとする各教科の先生方が励まし続けてくれたおかげだと思います。学校の部活動にこだわり続けた水泳指導では活動に制限があります。限られた活動の中でより高い成果を出すためには単に水泳指導だけではなく、保護者の協力や諸先生方の理解がなければ達成できません。各選手の事を自分のことのように心配してくれた方々に心より感謝いたします。皆さんの応援を力にしてこれからも頑張ります。



優勝を喜ぶ選手たち

アメリカンフットボール部



11年連続全国大会出場と クリスマスプレゼント

アメリカンフットボール部監督 高倉 清文

今シーズンは、高校ジャパン2名(アメリカ遠征メンバー)・U-19候補選手3名・プリンスボウル出場2名と優秀な選手がチームの中心となり、全国大会出場を果たしました。11年連続24回目の出場、過去ベスト8入り6回、大会決勝のクリスマスボウルを目指しましたが、残念ながら勝利の女神は微笑んではくれませんでした。

今年は、関西リーグの1部で活躍し日本一に輝いた



本校出身者を中心にこれぞと思われる若手を呼び戻し、コーチ陣を編成しました。選手達もそれに応えて日々の練習に全力で取り組みました。しかし、本校において致命的なことは、選手層が薄いことというよりも選手数が少ないのです。全国大会に出てくるチームは40名を超え、シュエーション毎に次から次と新手を繰り出し対応してくるのです。20名前後の選手では、現代のフットボールでは勝ち抜けなくなっています。このシーズンオフの時期にメンバーを集め、来シーズンに備えたいと考えています。

今年のクリスマスの贈り物は、30名とは言いません。20名を超える選手をお願いします!!

高校吹奏楽部



いくぞ! 東邦風凜火山

白谷 峰人

今年の夏マーチングコンテストのテーマは『凜』。凜と立ち、凜と振舞うことをテーマに練習に取り組んできました。

今までになく音作りにこだわった練習を行いながら、これまでのスタイル(動き)にもこだわり、演奏・演技を仕上げていきました。

強い絆とこだわりをもって挑んだ東海大会では観客の心を打つ演奏・演技を披露することができ、全国大会への切符を手にすることができました。

11月18日大阪城ホールで行われた全国大会は超満員の会場で、精一杯の演奏・演技を披露することができました。また、他団体の演奏・演技を鑑賞したことで、自分たちの良いところ・悪いところを見つめなおすことができました。

今回の全国大会出場をきっかけに来年こそ天下統一を目指し、日々精進していきます。



大学・短大 クラブ活動

硬式野球部



後輩たちの活躍を期待します

経営学部 4年 山下 義人

10月19日(金)同朋大学との最終戦を終え、私は野球部を引退しました。振り返れば4年前、同期で入部した部員は私を含めて6人いましたが、気がつくやうに4年生で続いていたのは私一人でした。

大学野球での一番の思い出といえば、何といっても平成17年度春季リーグ戦の優勝です。このシーズンは、チーム全体が調子よく、開幕から10連勝して完全優勝(4部リーグ2回目)をすることができました。幸い私もチームのメンバーのバックアップと運にも恵まれ、最優秀選手賞(MVP)を受賞し、また加藤史樹先輩が最優秀防御率賞(最優秀投手)、同期の小森圭悟君が打撃賞(首位打者)を受賞するなど、本学野球部の活躍が目立ったシーズンでした。

さて本学野球部は、昨年度から強化指定クラブとなり、昨年の秋季入れ替え戦で3部に再昇格しました。本年度の春季・秋季リーグ戦では3部リーグ3位という結果に終わり、残念ながらあと一歩というところで入れ替え戦に進出することができませんでした。しかし、私や先輩たちが叶えることのできなかった1部・2部リーグ昇格という夢は、近いうちに後輩たちがきっと実現してくれるものと確信しています。今後は1サポーターとして、本学野球部の活躍を陰ながら応援していきたいと思います。4年間ありがとうございました。



19年秋季リーグ同朋大戦での山下選手

軽音楽部



軽音楽部 大学祭で演奏

経営学部 1年 村田めぐみ

11月25日(日)、軽音楽部のバンド2つが大学祭でライブを行いました。

2つのバンドの中で片方が昼・夜の2回演奏をするということ、なんと大学祭の3日程前に知りました。しかも私のバンドに決定済み。ネタに走る予定の私のバンドが、2回もやっていいのか正直戸惑いながらの本番。結構怖かったです…。

私達のバンドは始めからヴィジュアルというジャンルで出るということを決めていました。曲はヴォーカルの私が好きなムックというバンドのものを選びました。ヴィジュアル系をやるのならばやはり見た目だけでも…、ということでヴィジュアルに抵抗のないギター(男)にお化粧をし、ロリータ服を着せ25日最大のネタ完成。ステージに立つ前からまわりに好評だったので、お化粧をしてあげた私も少し嬉しかったです。

もう一つの鈴木先輩のバンドはSHAKALABBITSのヘッドシザース、JUDY AND MARYのオーバードライブや尾崎豊のI LOVE YOUのコピーを演奏しました。沢山笑って楽しい一日でした!!!!!!



軽音楽部のメンバー

サッカー部



めざせ2部リーグ昇格!

大学経営学部 2年 平田 亮

今年のサッカー部の目標は東海2部リーグ昇格でした。今年1年間その目標に向かいチームで週6日間の練習をつんできました。

昨年は愛知県代表として入れ替え戦決勝トーナメントに出場できましたが、あと一歩のところに入れ替え

戦に出場することはできませんでした。昨年の悔しい思いを胸に、今年は愛知県リーグ戦で2試合中10勝1敗1分という成績で優勝することができました。12月11日、8日、サッカー部全員、絶対2部昇格の思いを胸に、愛知工業大学との対戦に臨みました。しかし、残念ながら、2部昇格を目前にして12月8日の敗退によってその望みはたたれました。最後の戦いでまだまだチームの力が足りなかったことを痛感しました。今、チーム全員、来年度こそ2部昇格の決意を新たに再スタートしたところです。

今年1年間のサッカーを通して、仲間を大切に、人間的にも成長できました。今まで支えて、応援してくれたたくさんの人々への感謝の気持ちを忘れず、これからも目標へ向かってチーム一丸となって進んでいきたいと思っています。これからも応援よろしくお願いします。



茶華道部



伝統を引き継ぎ新たなスタートへ

顧問 学務部進路課 所 智子

20年の歴史を持つ茶華道部は人間学部開学に伴い5年間ぶりに活動を再開しました。部員は、東邦高校からの経験者を中心に男性6名、女性5名です。毎週、木曜日にお稽古を行い、夏は合宿も経験しました。茶道は「生きていく目的」を考え、武道と同様「精神修養」を行います。部員は仲間とともに切磋琢磨をしながらお互いに成長し続けています。和室でゆったりと



した時を過ごすことはリラクゼーション効果が期待できるかと思います。ぜひ一度、見学に来てください。

今後、地域の文化活動の拠点となるよう、研鑽を積んでいく彼らの姿をどうぞ見守ってください。

東邦学園新評議員 一言アンケート



お名前 中林 功
所 属：大学短大後援会会長
出身地：兵庫県

①本学園との関わりについて

現在、次女が経営学部でお世話になっております。

②これまで東邦学園について感じておられること

先生方と学生達が、非常に密接でアットホームであり、娘が毎日楽しんで大学に通うのを見ていますと、私も大変うれしく思います。

③趣味または私的に打ち込んでおられること

休日は、妻とテニス、ゴルフを楽しんでいます。

又、家族がそろえば旅行に行くようにしています。

旅行先で家族とテニスをするのも楽しみのひとつです。

④本学園に今後期待されること

ますます地域に密着した学園として発展していける事を願っております。

学園人事往來

ご出産

☆谷 浩充(高校体育科教諭)の長女

平成19年11月8日誕生 優奏(わかな)ちゃん

☆平岡 広子(高校英語科教諭)の長男

平成19年9月19日誕生 佑晟(ゆうせい)くん

おくやみ

大林 丈夫氏(高校教諭 佐々木 泰裕氏の義父)

平成19年10月5日永眠(77歳)

池田ヨシ子氏(大学職員 池田 暁生氏の祖母)

平成19年10月21日永眠(80歳)

横井 欽哉氏(高校教諭 横井 由弦氏の父)

平成19年11月11日永眠

山本マツエ氏(理事長 伊藤 時雄氏の義母)

平成19年11月27日永眠(95歳)

丹羽 克治氏(大学元教員)

平成19年11月30日永眠(71歳)

TOHO gallery

東邦ギャラリー

電気自動車「稲妻」
(関連記事9ページ)



完成度の高かった美術展
(関連記事4ページ)



韓国から来日した祥明高校の生徒たちと (関連記事 14 ページ)



デイサービスの皆さんも
大学祭に参加
(関連記事6ページ)



奮闘 大学サッカー部
(関連記事 18 ページ)



本学職員(右) 空手で
全日本に挑む



現役保育士も参加。
好評だった東邦コミュニティカレッジ